

講演要旨

1. 「富士山から見た世界の大気」－NPO が管理運営している旧富士山測候所の現状と大気化学観測－

NPO 法人富士山測候所を活用する会 副理事長、江戸川大学名誉教授 土器屋 由紀子

2007 年より NPO 法人「富士山測候所を活用する会」が旧測候所庁舎の一部を借用、研究目的で夏期 2 ヶ月間管理運営している。今年、第 2 期の 3 年契約に入り設営の準備が始まっている。慣れない研究者達が NPO を立ちあげ、年間 3000 万円の経費を競争的研究資金で捻出してまで管理しているのは、山頂が自由対流圏に位置し、越境大気汚染観測に最適なためである。ここで得られたデータは世界に通用すると考えている。これまでの苦労などをご紹介したい。

2. 「ネパールの山旅、2009 年」－ひっそり佇む河口慧海記念館－

(社) 日本山岳会、関西学院大学山岳会 南井 英弘

昨年 (2009 年秋) ポカラからカリガンダキ河を遡り、マルファ村を TBH にダンプス峠を越え、ヒドン・バレー経由でタシ・カンの山麓に BC を建設、登頂した。マルファ村は河口慧海師がツアーランから移り住み、1900 年 6 月 12 日チベットに向けて出かけるまでの 3 ヶ月間滞在したカリガンダキ沿いの小さな集落である。

この村に「河口慧海記念館」と漢字で書かれた建物があり、内部には立派なコレクションと展示品が整然と保管されていた。その様子を中心に紹介したい。(文責; 前田栄三)

3. 「ブータンの氷河と氷河湖」 立教大学 観光学部 教授 岩田 修二

1994 年 10 月にブータンの古都プナカを襲った GLOF (氷河湖決壊洪水) をきっかけにブータンでの氷河と氷河湖調査が始まった。東ネパールや、ヒマラヤ北面、横断山脈と同じように、ブータンでも多数の氷河が縮小しており多くの氷河湖が形成され、氷河湖の一部では GLOF の発生・災害の発生が心配されている。1998 年のスノーマントレック沿いの調査を中心にブータンの氷河と氷河湖の現況を概観する。

4. 「マツタケはどこからきたのか」－東アジア・マツタケ回廊を行く－

京都菌類研究所長 山中 勝次

マツタケは日本固有種と考えられてきたが、韓国、北朝鮮、中国四川省・雲南省・チベット自治区、ブータンに産するマツタケや、北欧マツタケとも同一生物種である。マツタケのルーツを探るために、東アジアのマツタケと菌根共生する樹種を調べた。その結果、四川省、雲南省、チベット自治区、ブータンのマツタケはおもに常緑コナラ属やシイ属、マテバシイ属と菌根共生しており、これらの地域がマツタケの起源地と推定される。